

## 地球温暖化対策計画書

## 1 指定地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 指定地球温暖化対策事業者及び特定テナント等事業者の氏名

指定地球温暖化対策事業者 又は特定テナント等事業者の別	氏名（法人にあっては名称）
指定相当地球温暖化対策事業者	株式会社立飛ホールディングス
指定相当地球温暖化対策事業者	多摩信用金庫
特定テナント等相当事業者	株式会社立飛ホスピタリティマネジメント
特定テナント等相当事業者	一般社団法人立飛教育文化振興会

## (2) 指定地球温暖化対策事業所の概要

事業所の名称		GREEN SPRINGS					
事業所の所在地		東京都立川市緑町3番1号					
事業の業種	分類番号	K69	K_不動産業_物品賃貸業	不動産賃貸業・管理業			
	産業分類名	不動産賃貸業・管理業					
業種等 事業所の種類	主たる用途	事務所					
	用途別内訳	建物の延べ面積 (熱供給事業所にあつては熱供給先面積)		前年度末	7,629,741.00 m <sup>2</sup>	基準年度	m <sup>2</sup>
		事務所	前年度末	1,775,561.00 m <sup>2</sup>	基準年度	m <sup>2</sup>	
		情報通信	前年度末	m <sup>2</sup>	基準年度	m <sup>2</sup>	
		放送局	前年度末	m <sup>2</sup>	基準年度	m <sup>2</sup>	
		商業	前年度末	1,603,046.00 m <sup>2</sup>	基準年度	m <sup>2</sup>	
		宿泊	前年度末	1,362,143.00 m <sup>2</sup>	基準年度	m <sup>2</sup>	
		教育	前年度末	55,362.00 m <sup>2</sup>	基準年度	m <sup>2</sup>	
		医療	前年度末	m <sup>2</sup>	基準年度	m <sup>2</sup>	
		文化	前年度末	1,380,987.00 m <sup>2</sup>	基準年度	m <sup>2</sup>	
		物流	前年度末	m <sup>2</sup>	基準年度	m <sup>2</sup>	
		駐車場	前年度末	1,452,642.00 m <sup>2</sup>	基準年度	m <sup>2</sup>	
工場その他上記以外		前年度末	m <sup>2</sup>	基準年度	m <sup>2</sup>		
事業の概要		ホテル、ホール、オフィス、商業が中央に位置する広場と緑地を介してつながる複合商業施設の運営と管理。					
敷地面積		3,890,020.00 m <sup>2</sup>					

(3) 担当部署

計画の 担当部署	名 称	株式会社立飛ストラテジーラボ 戦略企画本部
	電 話 番 号 等	042-524-2240
公表の 担当部署	名 称	株式会社立飛ストラテジーラボ
	電 話 番 号 等	042-524-2240

(4) 地球温暖化対策計画書の公表方法

公表方法	ホームページで公表	アドレス： tachihhi.co.jp
	窓 口 で 閲 覧	閲覧場所：
		所在地：
		閲覧可能時間
	冊 子	冊子名：
	入手方法：	
そ の 他	アドレス：	

(5) 指定年度等

指定地球温暖化対策事業所	2022 年度	事業所の使用開始年月日	2020 年 2 月 3 日
特定地球温暖化対策事業所	年度		

2 地球温暖化の対策の推進に関する基本方針

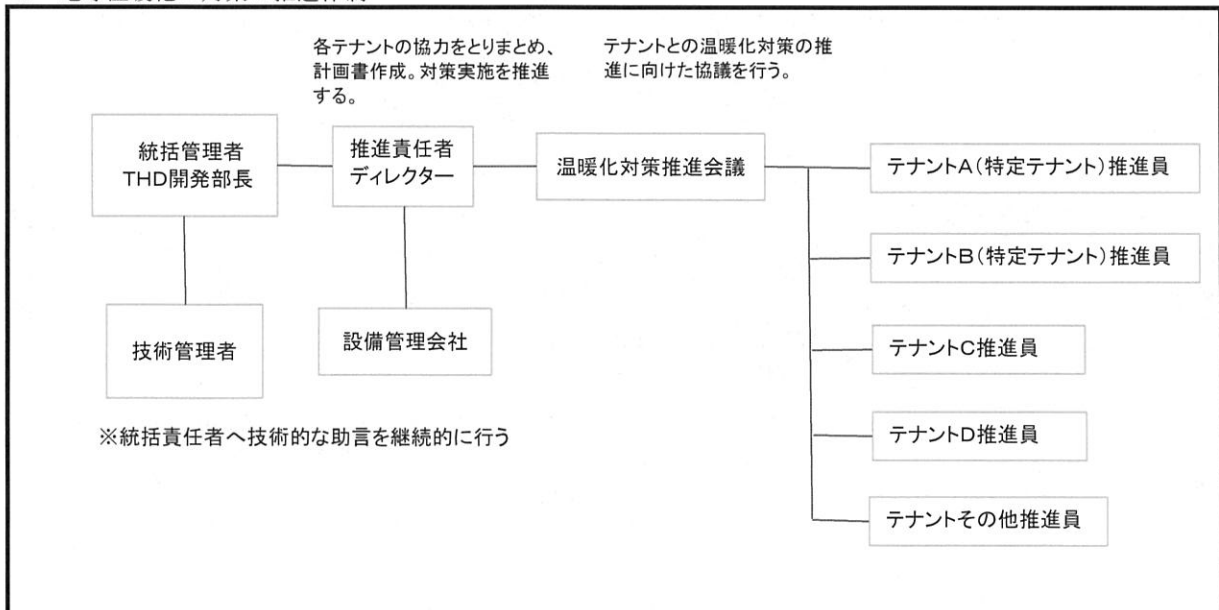
複合商業施設である当事業所は建築計画時から省エネ運営が可能な環境に配慮した施設となっておりますがさらに以下の点を重視した地球温暖化対策に取り組みます。

1. 施設側での省エネの取り組み。
2. 特定テナント等相当事業者に対する省エネ意識の醸成。
3. 事務所、飲食、物販テナント等に対する省エネ意識の醸成。

再エネの導入・利用に関する取組みについて：

- ・太陽光パネルを施設屋上に設置済。

3 地球温暖化の対策の推進体制



4 温室効果ガス排出量の削減目標（自動車に係るものを除く。）

(1) 現在の削減計画期間の削減目標

計画期間	2020 年度から 2024 年度まで		
削減目標	特定温室効果ガス	指定相当地球温暖化対策事業所となった2020年度と2021、2022年度のエネルギー使用実績で決まる基準排出量に対し総量削減目標（17%見込み）の削減を目指します。	
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	当事業所から排出される特定温室効果ガス以外のガス（その他ガス）は、水道の使用及び温泉汲み上げ使用を含む下水道への排出に伴う二酸化炭素の排出が主体となっている。テナントに対し節水呼びかけ、その他ガスの削減を目指します。	
削減義務の概要	基準排出量	t（二酸化炭素換算）/年	削減義務率の区分
	排出上限量（削減義務期間合計）	t（二酸化炭素換算）	平均削減義務率

(2) 次の削減計画期間以降の削減目標

計画期間	2025 年度から 2029 年度まで	
削減目標	特定温室効果ガス	第三計画期間の実績以上の削減を目指します。
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	節水を継続し、その他ガスを現状以上削減を目指します。

5 温室効果ガス排出量（自動車に係るものを除く。）

(1) 温室効果ガス排出量の推移

単位：t（二酸化炭素換算）

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
特定温室効果ガス （エネルギー起源CO <sub>2</sub> ）	6,805	6,815			
その他ガス	非エネルギー起源 二酸化炭素（CO <sub>2</sub> ）				
	メタン （CH <sub>4</sub> ）				
	一酸化二窒素 （N <sub>2</sub> O）				
	ハイドロフルオロカーボン （HFC）				
	パーフルオロカーボン （PFC）				
	六ふっ化いおう （SF <sub>6</sub> ）				
	三ふっ化窒素 （NF <sub>3</sub> ）				
上水・下水	61	60			
合計	6,866	6,875			

(2) 建物の延べ面積当たりの特定温室効果ガス年度排出量の状況

単位：kg（二酸化炭素換算）/m<sup>2</sup>・年

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
延べ面積当たり 特定温室効果ガス 年度排出量	89.2	89.3			

6 総量削減義務に係る状況（特定地球温暖化対策事業所に該当する場合のみ記載）

(1) 基準排出量の算定方法

<input checked="" type="radio"/> 過去の実績排出量の平均値	基準年度：（ ）
<input type="radio"/> 排出標準原単位を用いる方法	
<input type="radio"/> その他	算定方法：（ ）

(2) 基準排出量の変更

	前削減計画期間	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
変更年度						

(3) 削減義務率の区分

削減義務率の区分	
----------	--

(4) 削減義務期間

年度から	年度まで
------	------

(5) 優良特定地球温暖化対策事業所の認定

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
特に優れた事業所への認定					
極めて優れた事業所への認定					

(6) 年度ごとの状況

単位：t（二酸化炭素換算）

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	削減義務期間合計
決定及び予定の量	基準排出量 (A)						
	削減義務率 (B)						
	排出上限量 (C = ΣA-D)	/					
	削減義務量 (D = Σ(A × B))	/					
実績	特定温室効果ガス排出量 (E)	6,805	6,815				13,620
	排出削減量 (F = A - E)						

(7) 前年度と比較したときの特定温室効果ガスの排出量に係る増減要因の分析

増減要因	<input type="checkbox"/> 削減対策	<input type="checkbox"/> 床面積の増減	<input type="checkbox"/> 用途変更
	<input type="checkbox"/> 設備の増減	<input type="checkbox"/> その他	
具体的な増減要因			

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対 策 の 名 称	実 施 時 期	備 考
	区 分 番 号	区 分 名 称			
			【特定温室効果ガス排出量の削減の計画及び実施の状況】		
1	110100	11_推進体制の整備	地球温暖化対策推進体制	2020～	指定相当地球温暖化対策事業所に該当したため
2	120300	12_運転管理及び効率管理	熱源機器の最適効率運転	2020～	種類の異なる熱源機器の最適運転
3	130100	13_空気調和の管理	設定温度の見直し	2020～	適正温度設定
4	130200	13_空気調和設備の効率管 理	運転開始、停止時間の見直し	2020～	季節による運転開始、停止時間の変更
5	150200	15_照明設備の運用管理	点灯消灯時間の見直し	2020～	共用部、外構部のパターンと点消灯時間の変更
6	120600	12_廃熱回収の管理	採暖槽排水槽からの廃熱回収見直し	2022～	フロートレベルを変更
7	150200	15_照明設備の運用管理	点灯消灯時間の見直し	2022～	共用部、外構部のパターンと点消灯時間の変更
8	160200	16_建物の省エネルギー	駐車場排気ファン運転時間等見直し	2022～	駐車場排気ファン、サーキュレーター等の運転時間変更
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対 策 の 名 称	実 施 時 期	備 考
	区 分 番号	区 分 名 称			
17					
18					
19					
20					
			(再生可能エネルギーの設備導入及び利用の状況)		
71	190100	19_再生可能エネルギーの設備導入	太陽光パネルの設置		G棟屋上に設置済み
72					
73					
					【その他ガス排出量の削減の計画及び実施の状況（その他ガス削減量を特定温室効果ガスの削減義務に充当する場合のみ記載）】
81					
82					
83					
					【排出量取引の計画及び実施の状況】
91					
92					
93					

8 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価（自動車に係るものを除く。）

当事業所は2020年4月複合商業施設としてオープン、エネルギー使用量が基準を超え指定相当地球温暖化対策事業所に指定を受けました。エネルギー消費に影響する要因にはテナント入居状況、テナント営業時間、施設内イベント開催などがありますが施設側でできる対策を率先し、各テナントに対しては省エネ意識向上の啓発を第一とし運用対策を主に以下の点を重視して地球温暖化対策に取り組むこととしました。

1. 既設設備における効率運転の確立
  - ・種類の異なる熱源機器の季節別の優先運転機器、送水温度の決定。
  - ・大型空調機とEHP併設箇所の運転パターン。
  - ・外構、共用部照明の点灯パターン、点消灯時間。
2. 特定テナント等相当事業者における省エネ対策。
  - ・空調機、EHP等の運転/停止時間、設定温度の見直し。
3. 各テナントにおける省エネ対策。
  - ・EHP、FCU等の運転開始/停止時間、設定温度の見直し。

その他

- ・CGSを設置しデマンド抑制対策とし、また廃熱はホテルプールの温排水同様に熱源機器の温熱源の一部として回収し省エネに寄与している。
- ・来場者が集う小川、池には雨水を使用、ろ過装置を設置し循環方式とし不足分は上水を補給、水質管理を徹底し上水を節水している。
- ・環境にやさしい電気自動車用充電器を1階駐車場に新たに設置しました。
- ・共用部、外構部は清掃と植栽管理を特に重視、防犯カメラを適正配置しイベントや企画開催時には省エネを常に考慮した安全、安心、快適な施設運営を目指します。

再エネの導入・利用に関する取組みについて：

屋上に太陽光発電装置を設置し自家消費している。